

(2013年度)

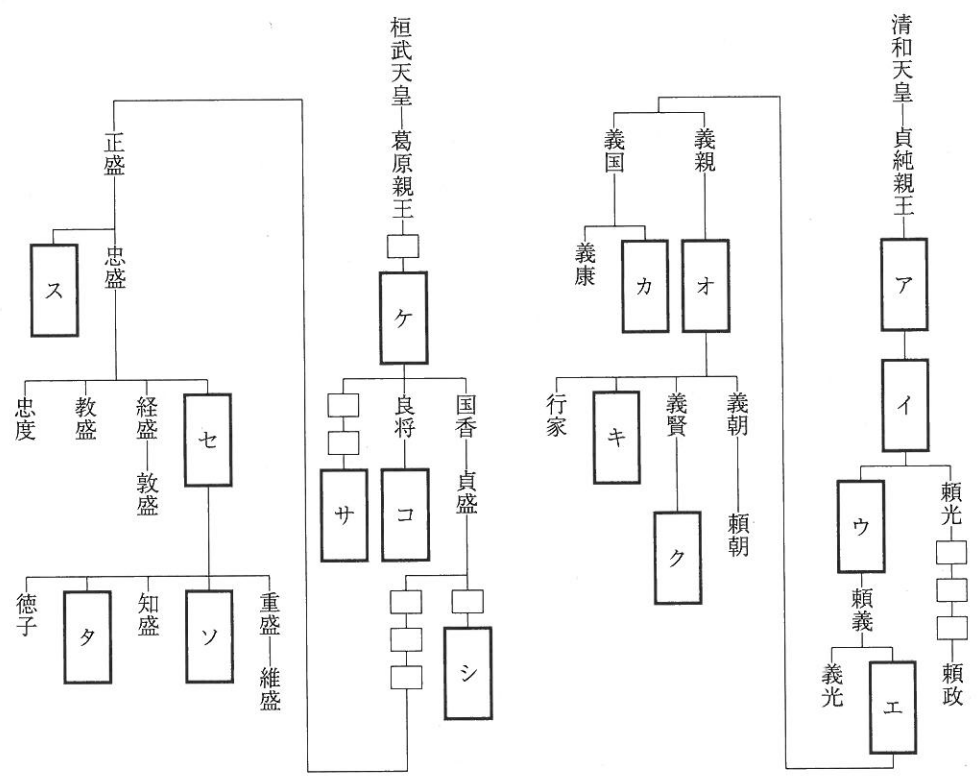
3 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は17ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 監督から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 源氏と平氏に関する次の略系図をよくみて、以下の問いに答えなさい。



問1 略系図の空欄 **ア** ~ **タ** に該当する人物の説明としてもっとも適切なものを、次の短文①~⑯から1つずつ選びなさい。

- ① 妻の妹滋子を後白河上皇の后に入れ、関白藤原忠通の子基実と娘の盛子を嫁がせ、太政大臣となって政権を掌握した。
- ② この人物を祖とする北条氏は、伊豆に配流された源頼朝を援助し、鎌倉幕府の開設に協力した。
- ③ 東国での活躍により武家の棟梁としての地位を固め、のち院の昇殿を許された。
- ④ 父親の遺領問題で伯父を殺害し、乱を起こして常陸・下野・上野の国府を攻略した。
- ⑤ 出雲で反乱を起こした父親を、平正盛に殺された。

- ⑥ 藤原純友の乱を，山陽道追捕使小野好古とともに平定した。
- ⑦ 1156年，崇徳上皇の軍に加わって甥と戦い，敗れて斬罪となった。
- ⑧ 1181年，京都近辺9ヶ国の治安に当たる総官に就任した。
- ⑨ 上総介となり任地に土着，千葉・上総・三浦・土肥・秩父・大庭・梶原・長尾各氏ら，その子孫は関東各地に広がった。
- ⑩ 上総介・武蔵国押領使となり，1028年に反乱を起こして房総を占拠した。
- ⑪ 福原京からの遷都後，父親の命を受け，反対勢力であった南都興福寺・東大寺の伽藍を焼き払った。
- ⑫ 1184年，征夷大將軍に任命された。
- ⑬ 藤原道長に仕えたが，のち河内守として土着し，河内源氏の祖となった。
- ⑭ 969年のある政変で藤原氏の権力集中に貢献し，摂津多田荘に土着して多田源氏を称した。
- ⑮ 九州に武威を示して「鎮西八郎」と呼ばれた。のち，伊豆大島へ配流となった。
- ⑯ この人物を祖とするある武將は，南北朝の動乱期に恒良親王を奉じて北陸に転戦，越前国藤島で戦死した。

問2 次の(1)～(4)は，10～12世紀に起きた政争・戦乱の名称である。それぞれの当事者(反乱者・鎮圧者，(2)の場合は密告者)を，略系図の空欄 ～ に該当する人物のなかから選びなさい。なお，複数ある場合はすべて解答しなさい。

- (1) 保元の乱
- (2) 安和の変
- (3) 平忠常の乱
- (4) 承平・天慶の乱

2

次に掲げた文章A～Eについて、以下の問いに答えなさい。

- A 南北朝の動乱のなかで幕府は地方の武士を組織するために、守護の権限を拡大する政策をとり、所領紛争に際し所有権を主張して実力で作物を一方的に奪取する行為を取り締まる権限^(a)や幕府の裁決を強制執行する権限^(b)などを付与した。さらに、当時、幕府では内紛の最中であったため、初めて軍費調達を目的として(ア)⁽⁷⁾を發布した。やがて、守護は、これらの権限を利用して、国内の荘園や公領を侵略して、武士に分け与えて、被官として統制下に組織していった。
- B 将軍足利義尚が近江国守護六角氏征伐の陣中で病没すると、義視の子義植が後継将軍に就いたが、管領細川政元と対立し、ついに政変によって将軍の地位を追われ、堀越公方(あ)の子義澄が細川政元によって新将軍に擁立された。その政元も家臣によって殺害されるに及んで、室町幕府は、主導権争いが激しさを増し、全国政権としての求心力を低下させていった。他方、国人・土豪層を家臣団に編成し、(a)を制定して強い統制力で領国支配を確立し、産業を開発して富国強兵を図るなかで領国拡大に努める(イ)が出現した。
- C 将軍権力の強化を目指し、専制的政治を断行した将軍(い)^(c)が有力守護の1人であった赤松満祐に殺害されると、それまで抑制されていた管領家が幕政の主導権を回復するかにみえたが、将軍権力の弱体化に伴い相次いで有力守護家の家督争いが起こった。将軍(う)は側近勢力とともに将軍権力の強化を目指したが、将軍家内にも継嗣問題が浮上するに至った。一方、細川勝元と山名持豊の幕政上の主導権争いと守護家の家督相続に伴う内紛が複雑に絡んで、守護大名はそれぞれ細川方と山名方の陣営に分裂して、ついに(b)で全面的な戦闘状態に入った。⁽¹⁾
- D (え)の遺児時行が信濃で挙兵すると、破竹の勢いで進撃して瞬く間に鎌倉^(d)を占領する事件が勃発した。これを機に、(お)⁽⁹⁾は、事態収拾のため関東

に下向し、鎌倉を奪回した。そののち、(か)の帰還要請を拒み、新政権に反旗を翻し、新田義貞等の討伐軍を撃破し、(b)へ向け進攻したが敗れ、九州へ遁走した。そののち、九州多々良浜の戦いに圧勝し、体勢を挽回した(お)は、大軍を率いて東上し、ついに(b)を制圧して、持明院統の(き)を擁立した。ついで、当面の政治方針を明らかにした(ウ)を制定した。

E 皇統が分裂し、幕府内部でも荘園支配をめぐる路線上の対立もあって政情は不安定な状態が続いたが、(く)が將軍になる頃には、国内の戦乱も次第に終息に向かい、政権が安定していった。明德3年、南朝の(け)が(く)の呼びかけに応じて帰京し、北朝の(こ)に讓位するという形で南北朝の合体が漸く実現した。また、幕府は朝廷が保持していた権限の多くをその管轄下に置き、ここに全国的な統一政権として確立するに至った。この時代に幕府の機構もほぼ整備され、將軍を補佐して政務を統轄する幕府最高の職として(エ)が設けられ、有力守護は(c)に常住して幕政の運営に当たった。

問1 上記の文章A～Eの空欄(あ)～(こ)に当てはまるもっとも適切な人名を、次から1つずつ選びなさい。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| ① 足利義政 | ② 後小松天皇 | ③ 足利尊氏 | ④ 北条貞時 |
| ⑤ 後村上天皇 | ⑥ 光明天皇 | ⑦ 足利政知 | ⑧ 後醍醐天皇 |
| ⑨ 北条高時 | ⑩ 足利義教 | ⑪ 後光厳天皇 | ⑫ 足利義満 |
| ⑬ 足利直義 | ⑭ 後亀山天皇 | ⑮ 足利義持 | |

問2 前掲の文章A～Eの空欄(ア)～(エ)に当てはまる事柄について、もっとも適切な説明文を、次から1つずつ選びなさい。

- ① 武家政権の再興に当たって、その政権の所在地をどこにするか、また直近の政策をどうするかなどについて、2項17カ条にまとめたもので答申書の形式をとっている。
- ② 侍所頭人の職務と山城国守護を兼任し、有力守護が交代で任じられた。

- ③ 莊園や公領の下地支配の権限を委託されるかわりに莊園領主などに一定の年貢の納入を請負った。莊園領主としては、年貢の確保が目的であったが、これにより単なる得分権者になった。
- ④ 当初は適用範囲が戦乱の激しい地域に限定され、1年を限りとして施行された。
- ⑤ 幕府公権の分掌や幕府の全国支配の国別執行人として、国衙の機能を掌握して地域的支配権を確立していった。
- ⑥ 東国10ヵ国と奥羽2ヵ国を統治し、直轄領を拡大して奉公衆の制度を整備していった。
- ⑦ 武家の基本法典で51ヵ条の条文よりなっており、当時、専制から合議制へ転換するなかで、一方に偏らない公平な判断の基準を確立する必要があった。
- ⑧ 全国的な規模で発令され、当初から下地の分割が行われた。
- ⑨ 足利氏の家宰である執事と裁判機関の長官である引付頭人の職務を合わせたもので、政務を総轄して將軍を補佐した。
- ⑩ 有力御家人が任命され、その職務は国衙在庁官人を指揮して国内の軍政に当たったが、その権限は大犯三ヵ条に限定されていた。
- ⑪ 一族・譜代の家臣を政権の中樞にすえ、新たに服属させた国人や地侍層を家臣団に組み入れて、貫高にみあった一定の軍役を負担させて軍事力を増強した。
- ⑫ 置文や家訓または慣習法などが集大成されたもので、支配領域内に適用するために制定した。

問3 前掲の文章A～Eの下線部(a)～(d)にもっとも関係の深い事柄を、次から1つずつ選びなさい。

- ① 明応の政変 ② 地下検断 ③ 中先代の乱 ④ 郡中
- ⑤ 使節遵行 ⑥ 元弘の変 ⑦ 下地中分 ⑧ 明德の乱
- ⑨ 嘉吉の乱 ⑩ 刈田狼藉 ⑪ 永享の乱 ⑫ 康暦の政変

問4 前掲の文章A～Eの空欄(a)～(c)に当てはまるもっとも適切な語句を、次から1つずつ選びなさい。

- ① 堀越 ② 落書 ③ 禁制 ④ 分国法 ⑤ 太宰府
⑥ 古河 ⑦ 格式 ⑧ 京都 ⑨ 新制 ⑩ 領国

問5 前掲の文章A～Eの波線部(ア)～(エ)にみる出来事が起きたのは、それぞれ西暦何年か。その年の「十の位」と「一の位」について答えなさい。例えば、それが2013年であれば、「十の位」の「1」と「一の位」の「3」をそれぞれ解答用紙の所定欄にマークすること。

3 次に掲げるのは、近世に至る日中仏教の交流史と、江戸幕府前期・後期の政治史に関する問題である。よく読んで答えなさい。

問1 日本と中国の僧侶の往来に関する次の文章A～Cを読んで、以下の問いに答えなさい。

A (ア)の弟子である円仁、円珍は相次いで唐に渡り、天台教学・密教を学んで帰国し、天台座主となって法門の発展に努めた。その後、彼らの門流は対立し、(イ)以降それぞれ山門派、寺門派と呼ばれた。

B 栄西は2度にわたって南宋に赴いて臨済宗を伝え、京都に(ウ)、鎌倉に(エ)を建てた。道元は南宋で学んで曹洞宗を開き、「只管打坐」を説いて越前の永平寺で弟子を養成した。また、南宋から(オ)が来日し、北条得宗家の保護を受けて(カ)発展の基礎を築いた。

C 明が海禁を実施したこともあって、僧侶の入明の機会は限定されたが、遣明船には禅僧が同乗し、上京の途次に詩文や書画などの交流がなされた。ただ、教学面では明から日本に影響することはあまりなく、日本の禅宗はいわば日本化を進行させたため、もともと明では(キ)を究めた隠元隆琦が、明末の混乱を避けて弟子とともに来日したとき、その新奇さが

注目された。

(1) 空欄(ア)に当てはまる僧侶は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 空海 ② 良弁 ③ 源信 ④ 恵果 ⑤ 鑑真
⑥ 最澄

(2) 空欄(イ)に当てはまる語句は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 9世紀半ば ② 9世紀末 ③ 10世紀初 ④ 10世紀半ば
⑤ 10世紀末 ⑥ 11世紀初

(3) 寺門派の拠点となった寺院はどこか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 東大寺 ② 延暦寺 ③ 教王護国寺 ④ 興福寺
⑤ 金剛峰寺 ⑥ 園城寺

(4) 円仁の著作はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 『山家学生式』 ② 『風信帖』 ③ 『行歴記』
④ 『入唐求法巡礼行記』 ⑤ 『教行信証』 ⑥ 『日本往生極楽記』

(5) 空欄(ウ)に当てはまる寺院は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 相国寺 ② 天竜寺 ③ 東福寺 ④ 万寿寺 ⑤ 万福寺
⑥ 建仁寺

(6) 空欄(エ)に当てはまる寺院は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 円覚寺 ② 寿福寺 ③ 建長寺 ④ 浄智寺 ⑤ 浄妙寺
⑥ 観音寺

(7) 空欄(オ)に当てはまる僧侶は誰か。適切な人名を、次から2つ選びなさい。

- ① 絶海中津 ② 虎関師錬 ③ 蘭溪道隆 ④ 桂庵玄樹
⑤ 無学祖元 ⑥ 夢窓疎石

(8) 空欄(カ)に当てはまる語句は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 法相宗 ② 華嚴宗 ③ 臨濟宗 ④ 曹洞宗 ⑤ 律宗
⑥ 念仏宗

(9) 道元の著作はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 『喫茶養生記』 ② 『歎異抄』 ③ 『顯戒論』 ④ 『往生要集』
⑤ 『正法眼蔵』 ⑥ 『春日驗記』

(10) 空欄(キ)に当てはまる語句は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 華嚴宗 ② 念仏宗 ③ 臨濟宗 ④ 法相宗 ⑤ 黄檗宗
⑥ 律宗

(11) 大内氏の庇護で入明、明画を学んで帰国して、『秋冬山水図』などを描いたのは誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 周文 ② 呉春 ③ 如拙 ④ 可翁 ⑤ 明兆
⑥ 雪舟

(12) 隠元隆琦が、宇治の地に寺領を得て住持となった寺院はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 興福寺 ② 崇福寺 ③ 資福寺 ④ 瑞聖寺 ⑤ 万福寺
⑥ 寿福寺

問 2 江戸幕府の5代将軍A(在職1680~1709年)および14代将軍B(在職1858~66年)に関する次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

Aは、(ア)の4男として生まれ、当初は大老(イ)の補佐で文治政治を推進した。儒学を好み、上野忍ヶ岡の弘文館を湯島に移して大成殿を設け、(ウ)を大学頭に任じた。(イ)の死後は、側用人(エ)を寵用し、生類憐みの令や貨幣改鑄などで、治政は乱れたとされる。

Bは、4歳で(オ)藩主となった。13代将軍が病弱で世子誕生の期待が薄かったため、将軍継嗣問題が発生し、門閥譜代からなる南紀派に属する大老(カ)が、老中の(キ)を罷免するなどして、Bの将軍職就任を強力に推進した結果、将軍職を継ぐことになった。

(1) 空欄(ア)に当てはまる人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 徳川家宣 ② 徳川家光 ③ 徳川家綱 ④ 徳川秀忠
⑤ 徳川頼方 ⑥ 徳川家継

(2) 空欄(イ)に当てはまる人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 本多正信 ② 保科正之 ③ 酒井忠清 ④ 松平信綱
⑤ 松平定信 ⑥ 堀田正俊

(3) 空欄(ウ)に当てはまる人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 林鳳岡 ② 広瀬淡窓 ③ 林春斎 ④ 林述斎
⑤ 岡田寒泉 ⑥ 松永尺五

(4) 空欄(エ)に当てはまる人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 田沼意次 ② 本多正信 ③ 荻原重秀 ④ 新井白石
⑤ 柳沢吉保 ⑥ 間部詮房

(5) Aの在職期間中に起きた事件はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 振袖火事 ② 由井正雪の乱 ③ 天狗党の乱 ④ 赤穂事件
⑤ 紫衣事件 ⑥ 天保の飢饉

(6) Aが将軍職に就く前に藩主であったのは何藩であったか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 岡山藩 ② 尾張藩 ③ 水戸藩 ④ 甲府藩
⑤ 和歌山藩 ⑥ 館林藩

(7) Aの在職期間中に書かれた著作は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 『経済録』 ② 『折たく柴の記』 ③ 『広益国産考』
④ 『赤蝦夷風説考』 ⑤ 『海国兵談』 ⑥ 『奥の細道』

(8) 前問(7)で答えた著作の作者は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 大蔵永常 ② 林子平 ③ 松尾芭蕉 ④ 工藤平助
⑤ 新井白石 ⑥ 太宰春台

(9) 空欄(オ)に当てはまる藩は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 岡山藩 ② 尾張藩 ③ 水戸藩 ④ 甲府藩
⑤ 和歌山藩 ⑥ 館林藩

(10) 空欄(カ)に当てはまる人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 松平慶永 ② 島津斉彬 ③ 徳川斉昭 ④ 井伊直弼
⑤ 伊達宗城 ⑥ 松平信明

(11) 空欄(キ)に当てはまる人物は誰か。もっとも適切な人名を、次から1つ選びなさい。

- ① 安藤信正 ② 堀田正睦 ③ 阿部正弘 ④ 水野忠邦
⑤ 松平容保 ⑥ 水野忠成

(12) Bの在職期間中に起きた事件はどれか。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① ペリーの来航 ② 鳥羽伏見の戦い ③ 浅間山の大噴火
④ 生田万の乱 ⑤ 生麦事件 ⑥ 宝暦事件

(13) Bの在職期間中に、初めて行われた政策は何か。もっとも適切なものを、次から1つ選びなさい。

- ① 分地制限令 ② 上知令 ③ 兵庫開港の実現
④ 海舶互市新例 ⑤ 万延貨幣改鑄 ⑥ 株仲間の解散

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

立憲主義とは、権利の保障と権力の分立によって権力を制限しようとする原理のことをいうが、日本の戦前期においても、この原理に基づくような国家運営がなされていなかったわけではない。1889(明治22)年に制定された大日本帝国憲法^(a)は、立憲主義憲法とはいうものの、必ずしも十全たるものではなかったが、1910年代から1930年代半ばまでは、より立憲主義的な運用がみられたからである。

それはいうまでもなく、2次にわたる憲政擁護運動とその成果に象徴的に示されている。第1次憲政擁護運動は、1912(大正元)年、(ア)陸相の辞表をきっかけに第3次(イ)内閣が組織されたことに端を発する。これに反発する立憲国民党の(ウ)、立憲政友会の(エ)らは、閥族打破や憲政擁護を主張し、翌年2月、(イ)内閣を退陣に追い込んだ。第2次憲政擁護運動は、1924(大正13)年、(オ)が貴族院や官僚の勢力を背景に超然内閣を組織したことに反対して展開された。(オ)内閣は議会を解散して総選挙に訴えたが、護憲三派の圧勝により第1次(カ)内閣が成立した。それが、こののち8年間、「憲政^(b)の常道」が継続する端緒となった。

このような政治の流れの背景として、学問や思想上の影響があったことはみのがせない。東京帝国大学教授の(キ)が、1912(明治45)年、『憲法講話』を刊行し、天皇機関説や政党内閣論を唱え、同じく東京帝国大学教授の(ク)が、1916(大正5)年、民本主義^(c)を提唱し、これらの思潮が大正デモクラシーの呼び水になったのである。同時にまた、その流れが、第1次世界大戦によってもたらされた大戦景気に支えられるとともに、第1次世界大戦後の正義と平和を基調とする「世界の大勢」に歩調を合わせた(ケ)外相による協調外交、さらには、そのもとでの陸海軍の軍縮を可能にしたことにも目を向けるべきである。

もちろん、この間、この流れに抗うような動きもみられた。1910(明治43)年には、大逆事件が発生し、天皇暗殺が計画されていたという理由で(コ)らが検挙され、翌年、そのうちの12名に対して死刑が執行された。また、いわゆる普通選挙法が成立した1925(大正14)年には、治安維持法^(d)が制定されている。こうした動きは、こののちの憲法の非立憲主義的運用を想起させるものがあるが、実際に

暗転することになったのは、軍部や右翼が国政において大きな影響力を持つようになったためである。

その兆は、1931(昭和6)年、(サ)らによって仕組まれた満州事変にみとれる。翌年には、(シ)の率いる血盟団員が(ス)前蔵相らを暗殺した血盟団事件、海軍青年将校の一团が首相官邸を襲撃し、(ウ)首相を射殺した五・一五事件が相次ぎ、1936(昭和11)年には、(セ)の思想的影響を受けていた皇道派の一部青年将校たちが首相官邸などを襲い、(ソ)内大臣、(タ)蔵相らを殺害し、国会などを占拠した二・二六事件が発生することになった。

こうした軍部や右翼の動きは、(ケ)外相の協調外交が軟弱で、日本の対外的な権益を失わせ、軍縮を余儀なくさせられていること、また、(ス)が蔵相時代に断行した旧平価による金輸出解禁が世界恐慌の時期に重なり、日本経済が深刻な恐慌に陥ったことなどに対する憤りに起因するものであった。貴族院で軍出身の(チ)議員が(キ)の天皇機関説は反国体的であると非難し、結局、ときの(ツ)内閣が国体明徴声明を発して、この説を否認せざるをえなかったところに、時代の大きな変化が表れている。

こうして、二・二六事件ののち、陸軍の政治的発言力は一層強まった。事件当時の(ツ)内閣に代わって成立した(テ)内閣以降、軍の関与なしに内閣を組織することはできなくなった。そして、このいわば非立憲主義的な軍事強権体制は、第2次世界大戦の敗戦まで続くことになる。

問1 上記の文章中の空欄(ア)～(テ)に当てはまるもっとも適切な人名を、次の語群から1つずつ選びなさい。

[語群]

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| ① 荒木貞夫 | ② 石井菊次郎 | ③ 板垣征四郎 | ④ 犬養毅 |
| ⑤ 井上準之助 | ⑥ 井上日召 | ⑦ 上杉慎吉 | ⑧ 上原勇作 |
| ⑨ 大杉栄 | ⑩ 岡田啓介 | ⑪ 尾崎行雄 | ⑫ 桂太郎 |
| ⑬ 加藤高明 | ⑭ 加藤友三郎 | ⑮ 菊池武夫 | ⑯ 北一輝 |
| ⑰ 清浦奎吾 | ⑱ 幸徳秋水 | ⑲ 近衛文麿 | ⑳ 西園寺公望 |
| ㉑ 斎藤隆夫 | ㉒ 斎藤実 | ㉓ 幣原喜重郎 | ㉔ 高橋是清 |
| ㉕ 田中義一 | ㉖ 団琢磨 | ㉗ 寺内正毅 | ㉘ 浜口雄幸 |
| ㉙ 広田弘毅 | ㉚ 福田徳三 | ㉛ 美濃部達吉 | ㉜ 美濃部亮吉 |
| ㉝ 森戸辰男 | ㉞ 山本権兵衛 | ㉟ 吉野作造 | ㊱ 若槻礼次郎 |

問2 前掲の文章中の下線部(a)に関する説明として、誤っているものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 立法・行政・司法の三権は分立していたが、神聖不可侵の天皇が統治権を総攬するものとされていた。
- ② 陸海軍の統帥権は天皇に直属し、陸海軍の編制についても天皇大権の1つとされていた。
- ③ 帝国議会是对等の権限を持つ貴族院と衆議院で構成されていたため、衆議院の権限行使は実質的に制限されていた。
- ④ 「臣民」としての日本国民は法律の範囲内で権利・自由を保障されたが、信教の自由は認められていなかった。

問3 前掲の文章中の下線部(b)に関する説明として、正しいものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 帝国議会で多数派を占める政党が内閣を担当する慣行
- ② 大日本帝国憲法に定められていた内閣制度の運用
- ③ 第一党が総辞職したのちに第二党が交代する責任内閣制の制度化
- ④ 立憲政友会と憲政会(のち立憲民政党)の総裁による政権交代

問4 前掲の文章中の下線部(c)に関する説明として、誤っているものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 国民主権と結びつく民主主義を大日本帝国憲法下に持ち込むのは困難である、との認識が抱かれていた。
- ② 政治の目的は民衆の福利にあり、それを実現するのは民衆の政治参加によるべきであると説いていた。
- ③ 普通選挙制度に基づく政党内閣制を理想とし、その段階的な実現を主張していた。
- ④ 啓蒙運動や研究活動を行うため、知識人層を中心とする黎明会や新人会が結成された。

問5 前掲の文章中の下線部(d)に関する説明として正しいものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① この法律の制定とともに、国体変革や私有財産制度廃止の企てを取り締まるため、道府県の警察に特別高等課が設置された。
- ② この法律の制定には、普通選挙制度の成立により、労働者階級の政治的影響力が増大することに備える狙いがあった。
- ③ この法律の制定の背景としては、前年の1924(大正13)年に、日本とソ連の間に国交が樹立したことも挙げられる。
- ④ この法律の制定ののち、思想統制が強化され、社会主義者にとっての「冬の時代」が始まった。

問6 前掲の文章中の下線部(e)に関する説明として正しいものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① 中国で国権回収の民族運動が高まり、日本がこれまでに持っていた山東省の旧ドイツ権益を返還することになった。
- ② 対ソ関係を改善するため、北樺太からの撤兵を行い、同地方における権益を失うことになった。
- ③ ジュネーブでの軍縮会議を受けて、陸軍でも軍縮が行われ、軍事費が3割近くも減じた。
- ④ ロンドン海軍軍縮会議では、大型巡洋艦の対米7割という要求が受け入れられなかったが、軍縮条約調印に踏み切った。

問7 前掲の文章中の下線部(f)に関する説明として誤っているものはどれか。次から1つ選びなさい。

- ① これを実施することで為替相場を安定させ、貿易の振興を図ることを望む声が財界には高まっていた。
- ② この実施には、生産性の低い不良企業を整理・淘汰して、日本経済の体質改善を図る必要があるとの判断が働いていた。
- ③ これを実施したため、銀行の経営状態が悪化して取付け騒ぎが起こり、休業する銀行が続出した。
- ④ これを実施して2年も経たないうちに、金輸出再禁止に踏み切り、管理通貨制度に移行していくことになる。

